

リアルタイム PCR 法を用いた浴槽水等のレジオネラ属菌迅速検査法の開発

保健科学課 松永 典久

第9回 福岡市技術研究発表会

レジオネラ症は免疫機能の低下した人では発症リスクが高く高齢者の死亡事例も報告されている。レジオネラ症の病原体であるレジオネラ属菌は、土壌や水環境に存在し、循環式浴槽や噴水等で増殖後、そこから発生するエアロゾルを吸入することで感染する。

レジオネラ症発生予防及び感染拡大防止のため当所でレジオネラ属菌検査を行っているが、結果が判明するまで7日以上を要する。そこで、迅速で安価な検査法として遺伝子を検出するリアルタイム PCR 法を用いた迅速検査法の開発を行った。

開発した迅速検査法は1日で結果がわかるため、陰性の結果判明が7日から1日に短縮され、施設改善措置後の再開を早めることが可能となる。また、迅速検査法はレジオネラ症患者の感染原因施設究明につながるなど保健衛生に大きく寄与できると思われる。

さらに年間計画に基づく浴槽水検査 500 検体において、迅速検査法を採用した場合を試算したところ、培養法による年間検査費用の約 1 割 90,000 円程度の削減につながる事がわかった。